

双葉郡子供未来会議 第一期報告書

平成25年12月24日

双葉郡子供未来会議参加児童・生徒一同

1. 参加生徒代表からのメッセージ

木村 元哉 福島県立いわき総合高等学校 3年

(広野町出身)



私はこの双葉郡子供未来会議に参加して、改めて教育の大切さを実感し、これからの教育・そして復興に対し考えるようになりました。

私は、この教育復興ビジョンに関わる大人の方々には、我々子供たちが一生懸命考え、実現していただきたいと思っている内容に対し、実際に今実現可能かそうでないかで判断するのも大切ですが、これらの案を実現するにはどうしたら良いのか？と言ったように前向きに検討していただきたいと考えております。

また、これからの子供たちに対しては、このような教育の場所がなぜ必要なのかを教え、常に問題意識と感謝の気持ちを忘れずに文武両道頑張ってもらいたいです。そして、完成したもののの中で生活していく中で、常に上を目指しより良い環境と自分になるためにはどうしたら良いか考えどんなに小さな事でも「Action」を起こし続けて行ってほしいです。

小泉 良空 福島県立いわき総合高等学校 2年

(大熊町出身)



私は双葉郡子供未来会議に参加し、様々な立場からの意見を聞くことで「教育」について改めて考えることができました。教育復興ビジョンの検討に関わる大人の方々には、この子供未来会議で出た多くの意見を一つでも多くではなく全てを反映していただきたいです。また、このような意見交換の場をこれからも多く設け、私たちの声を直に聞いてほしいです。震災、原発の影響を受け、双葉郡の学校に通う生徒が年々減少しています。大好きな双葉郡の学校が無くならないよう、中高一貫校という形で力を尽くしていただきたいです。

これからの子供たちには「学校をつくるのは君たち自身」ということを伝えたいです。福島県や双葉郡というと「大変だね」と言われることがこれからもあると思います。その言葉をただ受け入れるのではなく、相手に「うらやましい」と感じさせるような学校にしてほしいです。

双葉郡の教育に関わる人たちの意見をもとに用意された場を十分に活躍してくれると嬉しいです。双葉郡を知っている人にも知らない人にも誇れるような学校にしてください。

根本 寛子 福島県立葵高等学校 2年

(大熊町出身)



私は子供未来会議に参加したことで、ふるさとの大熊町や双葉郡、福島県の復興や未来を考え直す大きなきっかけとなりました。

これからの双葉郡や福島県の復興を担い、地域を活性化することが出来るのは私たち子供であると思います。けれど、どうすれば自分のふるさを復興へと導くことができるかわからない子もいるかもしれません。そんな時、地元や全国、世界との交流のある学校であれば、交流を通して自分のしたいことを見つけることができるのではないのでしょうか。

そして、双葉郡の活性化のために大切な人材を育成することができる中高一貫校をつくるために、私たちが子供未来会議で真剣に議論した多くのことを大人の皆さんに、「少しでも多く」ではなく、「すべて」実現できるようにしてほしいと思います。私たち子供と一緒に、双葉郡の誇りとなるような素晴らしい最高の学校をつくっていきましょう。

横川 成美 福島県立会津学鳳高等学校 2年

(大熊町出身)



私は双葉郡子供未来会議のワークショップに初めて参加させていただいた時、周囲には知らない人ばかりでとても不安でした。しかし、同じ経験をしたということもあり、いつの間にか自分の気持ちを理解してくれる場になっていました。

そして第2回第3回と教育について、学校のあり方について小学生から大人の方々と意見交換をし、これからの未来を作り、その未来を生きていく若者として自分の意見を主張してきました。

こうして生み出された意見は私たち一人一人の本当の気持ちです。うまく伝えられているかわかりませんが、私たち双葉郡の子供たちが大きな翼を広げて羽ばたいていけるような土台を作ってほしいです。そして、「双葉郡といえばあの中高一貫校だね」と胸を張って自慢できるものにしてほしいです。

西村 志保 福島県立会津高等学校 1年

(大熊町出身)

私はこの未来会議に二回参加させて頂きました。この二回で色々な場面にいる方々と意見を交換しました。

まず感じたのはこの経験を通し、自分の視野が広がったということです。大人の方や先輩とこれからの双葉郡について考えを深く話し、沢山の自分では生み出せないアイデアが出されました。私がみなさんに伝えたいことは、学生のうちから自分の目標(夢など)を持ち、それに向けて様々な経験や価値観に触れるということです。(海外研修や部活動、意見交換など)それらから得られるものは絶対に将来の糧となるに違いないからです。そのようなことを双葉郡の教育は実現しようとしています。(参加して感じた)自分から積極的に可能性を沢山秘めたふたを開け下さい。



松本 莉奈 福島県立磐城高等学校 1年

(楢葉町出身)

震災から三年が経とうとしている今、私達は震災に真正面から向かい合わなければなりません。そんな今、全てを原発のせいにしていて良いのでしょうか。文句を言うだけでは何にも始まりません。私達にできることが必ずあるはずです。

震災から数か月間苦しみに耐えていた私を救ったのはハワイ研修でした。私は仲間と出会い、苦しみを共有して、前向きに生きようと思えるようになりました。

自分から動く大切さを知り、私は多くの活動に参加してきました。自分で作っていた壁を壊し、海外へも視野を広げ、今はOECD 東北スクールに参加しています。

私は、これらの活動で出会った仲間たちと共に、困難を乗り越えてきました。皆が本気で動けば、わずかでも何かを変えられると私は確信しています。

双葉郡の未来を担う子供達に、このような経験をしてほしいです。未来の双葉郡のために、私たちの手で最高の学校をつくりましょう！！



2. 実施概要

【双葉郡子供会議】

平成 25 年 3 月 31 日（日） 10 : 00～15 : 00

エルティ （福島県福島市）

参加者：

約 80 名

- ・ 福島県双葉郡の児童生徒 約 25 名
- ・ 同保護者 約 24 名
- ・ その他関係者（協議会委員、大学生、行政関係者等） 約 30 名



【第一回双葉郡子供未来会議】

平成 25 年 9 月 23 日（月） 10 : 00～16 : 30

榎葉町立榎葉小中学校中央台仮設校舎体育館（福島県いわき市）

参加者：

56 名

- ・ 福島県双葉郡の児童生徒 15 名
- ・ 同保護者 5 名
- ・ その他関係者（双葉地区教育長会、福島大学学生、福島大学関係者、行政関係者等） 36 名



【第二回双葉郡子供未来会議】

平成25年10月13日（日） 10:00～16:30

会津大短期大学部体育館（大熊中学校仮体育館）（福島県会津若松市）

参加者：

85名

- ・福島県双葉郡の児童生徒 32名
- ・同保護者 15名
- ・その他関係者（双葉地区教育長会、福島大学学生、福島大学関係者、行政関係者等）38名



【第三回双葉郡子供未来会議】

平成25年10月26日（土） 11:00～17:00

郡山市役所（福島県郡山市）

参加者：

59名

- ・福島県双葉郡の児童生徒 11名
- ・同保護者 8名
- ・その他関係者（双葉地区教育長会、福島大学学生、福島大学関係者、行政関係者等）40名



3. 主な意見

【夢】

(1) 夢を見つけるたくさんの「小さな窓」

- 双葉郡の子供たちが、夢を持って、自らアクションを起こせる人となるためには、学校に、将来の夢を見つけるきっかけとなる「小さな窓」がたくさんあることが大切。
- 「小さな窓」とは、大熊町「希望の翼」事業による海外留学のように多文化に触れたり、実際の社会に出て仕事を体験するなどの様々な体験の機会。一流の人や、色々な職業の人が何をしているのか話を聞く講演会や、学校の掲示物等の形もあり得るが、受動的なものではなく、自分から動いてこそ分かる体験を大切にしたい。自らアクションを起こしてきっかけをつかむことが、自分は将来こうなりたいという夢や目標を見つけることにつながる。
- 「小さな窓」はたくさん必要。人は大きくなるほど夢を選択していくことが必要だが、子供にはたくさんの可能性があり、夢はいくつでもあって良い。ひとつの夢や目標に絞るのでは無く、迷いながら本当の自分を見つけていくためにも、ちょっと覗くことができる「小さな窓」がたくさんあることが必要。「小さな窓」は、やがて大きな夢に育っていく。
- 双葉郡の故郷に戻りたい気持があっても、実際に戻れる環境にあるのか分からず、選択することができず、いきなり避難しろと言われてから今まで、落ち着いて考える余裕がなかった。また、人の役に立ちたい、医療の仕事に進みたいと思っても、将来の見通しが分からず、地理的にどこの学校に進めば良いか分からないことから焦りもある。将来などを選択する選択枝や、判断するための機会が欲しい。

【学び】

(2) 個性を伸ばす、楽しい学びのきっかけ

- 一人一人を大切にする、自由な個性を發揮できる学校としたい。そのために、学びのきっかけを大切にしたい。
- 授業では自分を生かせる場があまりないと感じている子供も居る。授業でも一人一人が自分らしさを生かしながら学び、基礎的な学力もつけていくためには、「このために学んでいかななくてはいけない」など必要性が分かることが必要。必要性が分かれば自ずと、今までの授業をよりよく理解することができるのではないか。

- 現在、復興しなくていけないという気持ちがあるため、その気持ちと学びをつなげるためにも、今まで以上に学びの必要性を聞かせる場が必要である。
- 「先生が怖い」「勉強ばかり」「せまい・体育館がない」「しゃべらない」そんな学校は楽しくない。逆にみんなが楽しめる学校とは何か考えてみると、一番は興味や関心のあることから勉強を始められることだと考える。学問的な興味関心を持っている子供も居るため、その関心を尊重していければ良い。また、サッカーが好きな子は、サッカーの得点では算数を、サッカーの世界大会などの試合では、相手チームの国のこと考え、社会を勉強できる。また、色々な人と話すために英語や国語を楽しく勉強することができる。子供未来会議でも関心のある内容では小学生から高校生まで、集中力を持って何時間も話し合うことができる。
- 興味関心に応じて、色々な勉強や部活ができることも個性を発揮することにつながる。

(3) 体験を重視する「動く授業」

- 「動く授業」とは、身体を動かす体育の授業ではなく、グループ学習など生徒が自ら動くことのできる授業のこと。夢を見つけた後では、夢を叶えるための体験学習を重視していくことが重要。
- 一方的な授業では、集中力が続かない。机に縛られた勉強だけではなく、実際に体験をし、実践していく学びが大切である。
- 自分とは違う生活を送っている人との交流も大切である。英語の授業でも語学を学ぶだけではなく日本とは違う文化に触れたり、新たな交流の場を持つことで、輪を広げることができる。新たな経験から刺激を受けることが、復興を担う人材育成の出発点となる。また、多文化に触れたり、ディスカッションしたりすることを通じて社会性を養うことができるようになる。こうした子供未来会議で多様な意見を交流させることも重要な体験の場である。
- 授業のやり方について、自分から学習しようという主体的な学びの場が必要である。先生にやらされるのではなく、自分から動く授業がいい。授業をわかりやすくするのはなく、友達同士でコミュニケーションをとりながら勉強することで理解が深まるのではないか。先生が教えるだけの一方的な教育ではなく、グループでの話し合いを行ったり、同級生や先輩が先生になる授業なども取り入れ、生徒同士で教え合うような生徒が主体となった授業であれば、生徒自身が考えて決めていくことで成長することができるのではないか。応用クラスや基礎クラスに分け方も、優劣の差ではなく、得意不得意を見極めて互いに教え合い支え合うことで、個人に合った授業が必要である。人に分かりやすく教えることは、自分ができない経験をした人にしかできない。
- 分かり易く学ぶために電子黒板やDSやタブレット等のICTを活用する授業を行ってほしい。最先端技術を活用すれば楽しく授業を受けることができるのではないか。設備を充実させれば快適に授業を受けることができる。また、写真なども

- 効果的に活用し分かりやすくしていくことが必要。
- 勉強をしたい子のためには、学校での勉強は中学校段階で高校の部分も終わらせてしまい、高校では社会に出ての見学やインタビュー、海外での体験などに時間を使えることも可能にしたい。

(4) 世界とつながる

- 双葉郡の復興は世界と協力していくことが必要であり、双葉郡の学校も世界とつながっていくことが必要である。世界とつながるには、英語を習い、外国のことを勉強することだけではなく、一番大事なのは「笑顔」で世界とつながることある。笑顔で接するためには積極性、主体性、やる気も必要である。双葉郡から避難して失った主体性と自信を取り戻すためには、出来ないことを指摘する学校ではなく、得意なことを褒めて伸ばす学校とすることで良い循環が創れる。また、一度海外を経験する（放り込む）ことで視野の狭さを実感するとともに、目的を見つけることにつながる。帰国後に学校で学び、その後再度海外でリベンジする（一度目の海外体験では出来なかった目標を達成する）という循環が良いのではないだろうか。海外留学等の体験活動と日常のカリキュラムは密接に結びついていなければならない。海外とは交流や発信するだけではなく、共に協力して何かを創りあげる体験をすることも重要である。
- 様々な職業の人に来てもらったり、話し合うような授業をしたりすることで、多くの価値観に触れることができる。また、海外留学を通じて異文化を知ることができ、その多様性について触れることができる。より継続的な取組が大事。
- 双葉郡から全国や世界へ情報発信をしたい。インターネットも利用して、「さすが双葉、素晴らしいぞ双葉」と思ってもらえる情報を世界に発信し続け、避難した人も安心して帰ってこられる状況を作る。
- 双葉郡の学校と全国の学校とで日常的な連携を行うことで、若い世代で情報を発信して双葉郡のマイナスイメージを払拭したい。

(5) 学習内容（双葉郡ならではの、復興、歴史と伝統の継承、エネルギー）

- その学校に在籍していなければ出会えない、ほかの学校にはない授業（海外留学や海外の学校との提携、風評についての授業、地震などの際に予測して行動する力をつける授業、有名人による授業等）や体験の機会があり、世界にはばたいていける学校が良い。
- 誇れるまちづくり、地域づくりを進め、地域ブランドを創るうえでも、歴史と伝統の継承について学ぶことは必要。お墓など先祖が守ってくれていたものや、文化をどうやって残し伝えていくのか。
- 過去の教訓から学ぶために歴史の授業はあると思うが、原発については、目を背

けてはいけないという想いと、今語っても答えが見つけれないし状況は改善しないという想いの双方があり、これからも話し合いをつづけていきたい。

- 大人でも答が出ていない復興の課題について、子供たちが意識して自ら何かに取り組むようになれば、リスクをチャンスに変えることが出来る可能性がある。双葉郡のビジョンや中高一貫校もそうした場としていきたい。

【環境】

(6) 少人数

- きっかけを大切に学ぶを行うためには、子供と先生がお互いを深く知っており、授業を一緒に創っていく環境を創ることが大切であり、少人数授業としてほしい。少人数であれば、一人一人の得意なところ、長所をのばすような教育を受けたい。生徒同士のつながりも濃くなるのではないか。

(7) きっかけをつかめない子へのサポート

- きっかけをつかんで、体験の機会にたどり着かない子たちも多いので、うまくその機会を利用できるきっかけを与えることが大事。きっかけをつかむ勇気を持って、一步を踏み出せるヘルプも用意していくことが必要。
- 子供自身も、自分からきっかけを見つけることができない人をお互いにサポートする力もつけると、多くの人と関わることができるのではないか。

(8) 先生との関わり

- 色々な個性を大切に学校は、「普通とは何か」「すごいとはどういうことか」という捉え方も多様になる。先生もひとつの基準で物事を押しつけることができず大変になり、対応しきれない。先生を増やすことは必要だが、子供と親と先生とが家族並みの近さになることも解決につながるのではないか。
- おもしろくて真剣な先生がいい。話を聞いてくれて、ダメなところをしかってくれる先生がいい。そのためには、子供自身も先生に要望を伝え自発的に動くことが大切。

(9) 生徒の主体的参画によって創りあげる学校

- 子供の意見を聞いて子供を中心とした学校としたい。

- 自分一人で考えることは小さいことであるが、多くの人で話し合うことで、段階的に考える、学ぶことが必要だ。この新しい教育は最新の教育であると同時に、本来の教育にもどることでもある。自らアクションを起こすことはどういったことなのかを、みんなが考える意識をもち、主体的に学びたいと思い、学びを深めることができる。自分のできる範囲で広げていきたい。
- 将来の夢や目標にあわせて勉強の内容を選べ、また将来の夢が変わった時に学習のコースを変更することもでき、さらには給食もリクエスト給食や月に1度のバイキングがある等、全ての子供の意見を取り入れる学校とする。そのためには少数意見を聞くことを大切にして、意見を出す場や、そのための委員会を創ることが必要。こうした願いをかなえるためには子供も自分から動かなくはない。もっと早く話し合いをして学校に取り入れたかった。

(10) 地域の人たちが集い、みんなで作る学校

- 今の学校は主に生徒と先生の関係だけである。それだけではなく、地域という場所に足を運んで地域の人のお話を聞くことで学べることがあるうえ、地域で孤独になる人がいなくなるのではないか。学校自体も、町の人にとってもよりどころとなり、多くの人を訪れる場としたい。高齢者や海外の人も含めてみんなが楽しめる場所を併設（自然、公園、温泉施設、娯楽施設等）することも進めたい。
- 震災後、学校・家庭・地域のバランスが崩れてしまった。地域に人が戻ってくるためには何をしなくてはいけないのか考えたい。双葉郡の地域を笑顔にしたい。仲間や友達みんなで作る行事（祭りや、スポーツ大会等）を、子ども中心で地域とともに創り、あらゆる年代が一つになり、よりたくさんの笑顔を生みだしたい。
- 地域を活性化するために、一人だと自分の考えだけが正しいと思ってしまうので、みんなが集まっていろんな意見を集めていき考えていくことで、未来が作られていく

(11) 毎日皆と笑いあえる楽しい学校

- ケンカをしてもすぐに仲直りして毎日笑いあえる学校が良い。親は学校を勉強第一で考えているが、子供たちは楽しい場所であるという点を大切に考えている。
- 目の前の先輩がいることが将来の見通しを持つことにもつながることから、新しい学校には子供が集まることが重要である。異なる年齢の子供同士で交流したり勉強会ができたりする学校となると良い。小中高が同居する校舎の配置や体育館の数まで具体的にイメージを膨らませながら議論をした。
- やりたい部活が選べる部活が活発な学校、高校生の醍醐味である文化祭に取り組める学校、中学時代の友達と一緒に進学できる高校、サテライト校舎ではなくみんなと同じ校舎で勉強や部活動ができる学校、通学時間が短い学校、魅力的な制

- 服がある学校など、当たり前のことを大切にしたい。
- 個性を大切に、服装や髪形も自由としても良い。

(12) 避難している友達との再会の機会

- 今は違う学校に通っていても、近くに住んでいるふるさとの友達とは頻りに集まっている。友達との話す機会笑顔になる。
- 離れてしまった友達に会いたい。再会の集いを開催して欲しい。双葉郡の町村で合同で開催したり、年代毎に開催するなど工夫が考えられる。
- 友達と再会したり、新しい友達が出来たりすると、必ず今の生活やこれまでの避難の変遷の話の共有をするのが通例となっている。

(13) 今後の取り組みについて

- これまでの常識にとらわれず、これまでにない対応をすることが大切。
- 時間を無駄にはできず、協力して復興に近づけていくことが必要。
- 2年経って大人と子どもの対話が大切となった。単発の話し合いで終わらず、長期的・継続的に話し合う機会を増やしたい。前のめりにならず、急がず、ぽろっと本音が出て来るような時と場を設定していくことが必要。

(その他)

幼小中高大で身につけるべきことの組み込み

- 思考力やヒアリング能力など小さな頃に身につける方が良いこともある。幼稚園から大学までの間で身につけるべきことを意図的に組み込んでほしい。

鍛える学校

- 自由と鍛えることは相反するものではない。自由には、決まりからの自由と、夢を追及する自由の二つがある。夢を持ち追いかける時には学力も必要になるが、こうした学力を持ってこそその自由もあり得る。やみくもに自由ということではなく、自由を感じる雰囲気の中で夢を追いかけられるよう鍛えられる学校としたい。双葉郡の子供たちは避難によってある意味では家業の束縛からの自由があるとも言える。この機会に広い視野を持ち夢を叶えられる学校としたい。また、新しい学校には目玉となる取組も必要である。

道徳としてのコミュニケーションや生き物の飼育

- 社会に出て上手く生きていくためには、柔らかい価値観を持ち、自分に無いもの

と有るものを知り、自分に無い考えを吸収して判断する力が必要。人との会話や気遣いができるようになるためのコミュニケーション力、感謝・我慢・命への思いやり、夢を見つけるための努力等を学ぶことが必要。分かり切ったことを教えるのではない驚きや気づきの道徳とすることが必要であり、授業では生き物の飼育や外国の人とのコミュニケーションなどを取り入れてほしい。

特別教室や遊具が充実している学校

- 現在の避難先の学校よりも図書室、音楽室等の特別教室や、遊具がたくさんあり、施設が充実した学校が良い。また、図書室は本の数も充実させて欲しい。

学科やカリキュラムを専門外から考える

- 新しい中高一貫校についてはまだカリキュラムは白紙である。普通科、スポーツ科等も予定されるのではないか。世界に通じる学校になるべきである。英語とか国際的に使えるような能力を付けることが大事。今日話し合われたみんなの意見を盛り込んでほしい。